

# 令和7年度（2025年）人間環境大学卒業生アンケート調査結果

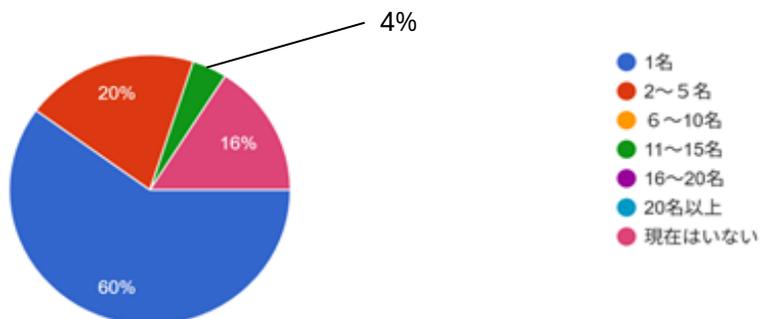
調査期間：令和7年9月4日～9月31日

調査対象：2022年度卒業生が就業する施設の看護管理者 回答率：25/38施設（65.7%）

調査方法：看護管理者 無記名（FAX・Google forms・メール返信）

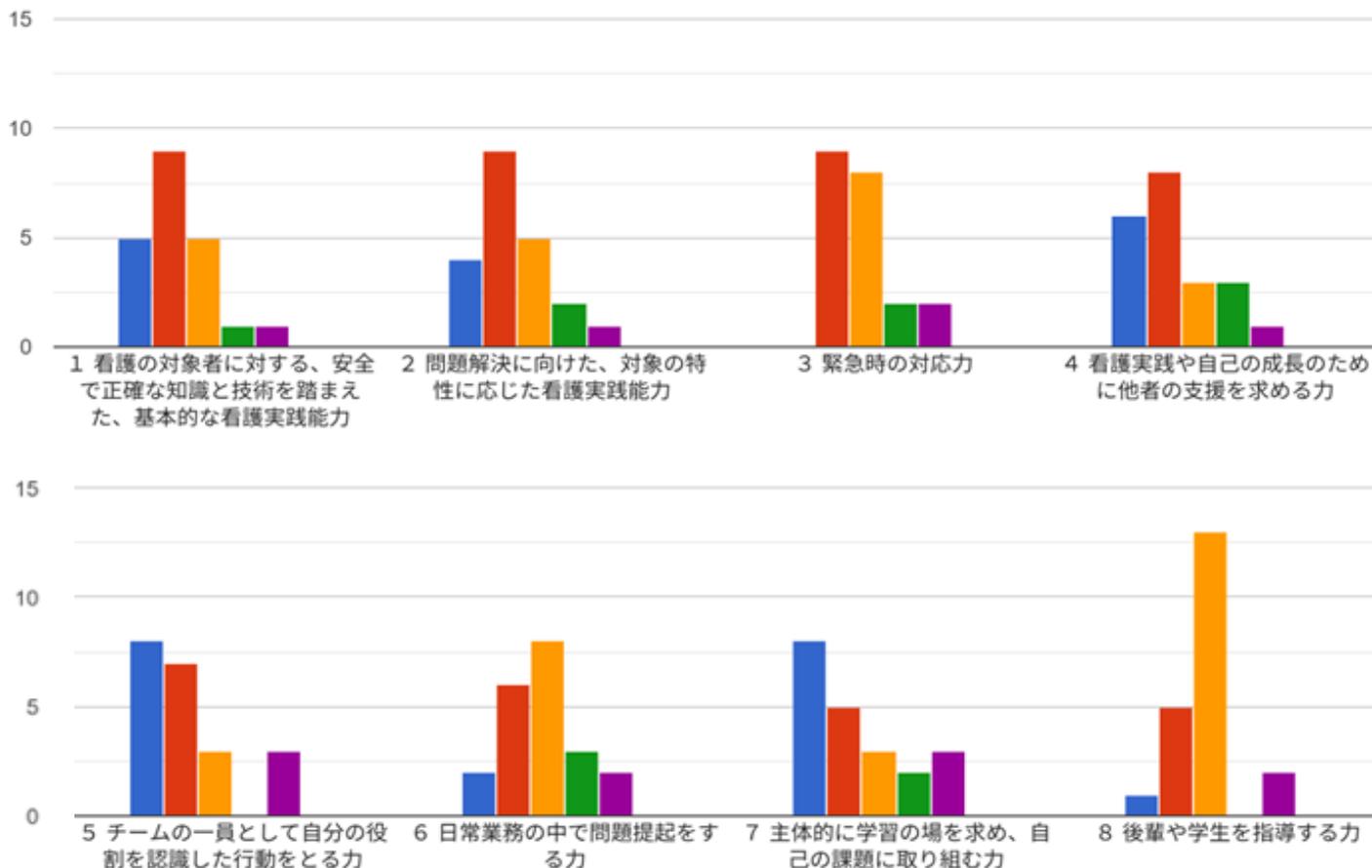
## 問1 就職している本学部の卒業生の人数について、一番近い番号に○をつけてください

25件の回答

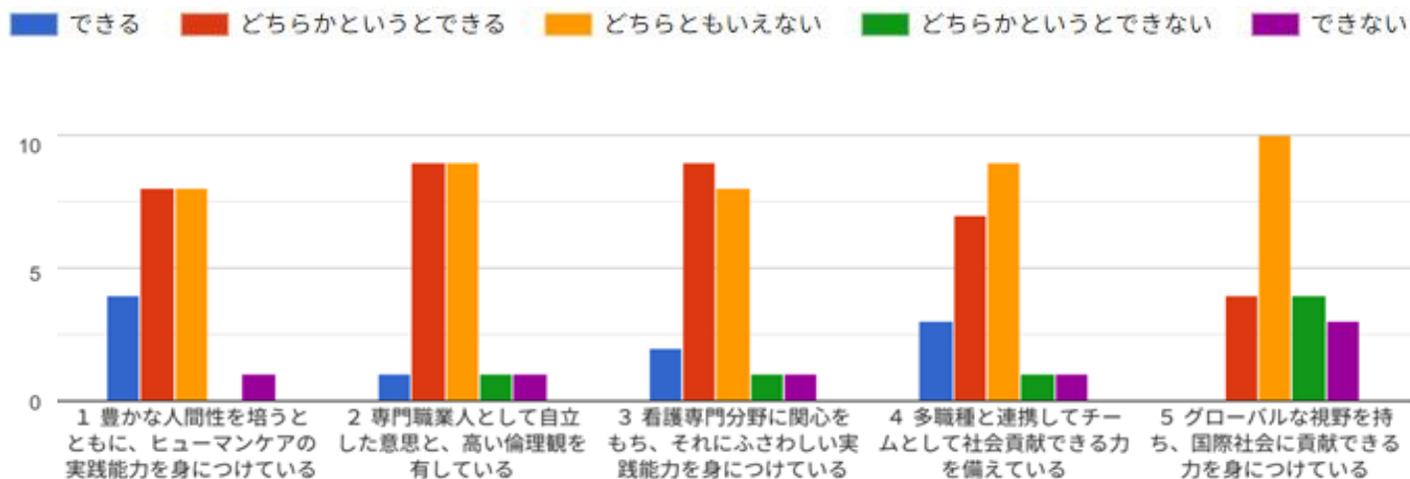


## 問2 総合的にみて本学部卒業生の看護実践能力について、あてはまる番号に○をつけてください

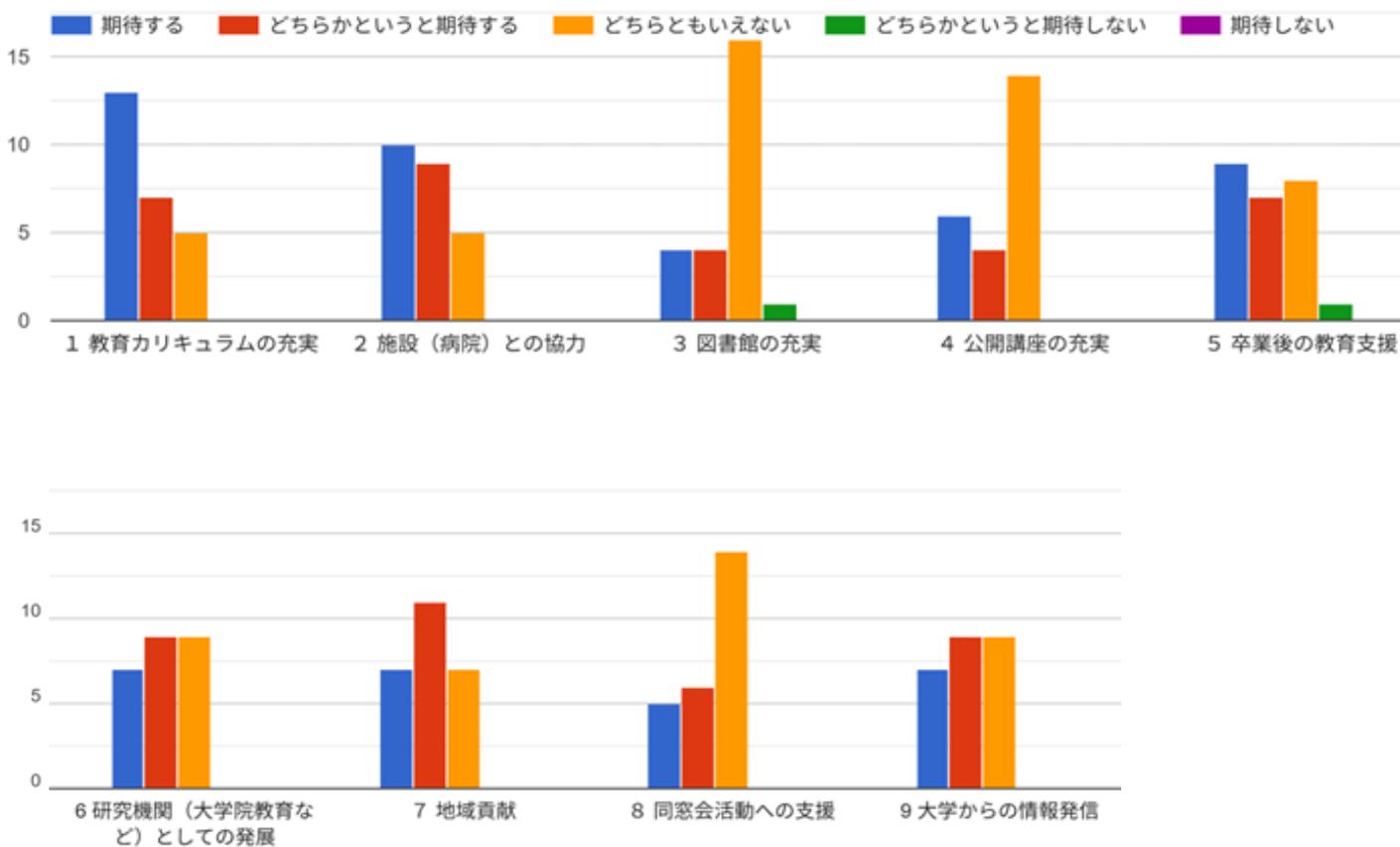
■ できる ■ どちらかというところできる ■ どちらともいえない ■ どちらかというところできない ■ できない



問3 本学部の教育での学びがどの程度遂行されているか、あてはまる番号に○をつけてください  
 本学部では、大学卒業時に身につける能力として、下記を提示し、その能力が備わるよう教育を行ってきました。卒業生は、以下の能力が臨床で遂行されているか、ご判断ください。



問4 本学部に期待することについて、あてはまる番号に○をつけてください



## 令和7年度卒業後アンケート調査結果 総評（就職先・施設）

### 問1 就職している本学部の卒業生の人数について

1名のみ在籍する施設が約6割を占める一方、県内施設を中心に2名以上の卒業生が勤務する施設もみられ、中には11名以上と回答した施設もあった。

### 問2 総合的にみて本学部卒業生の看護実践能力について

『安全で正確な知識と技術に基づく基本的な看護実践能力』『問題解決に向けた対象特性に応じた看護実践能力』『緊急時対応』『他者の支援を求める力』において、「どちらかというところできる」が最も多くを占めた。『チームの一員としての役割認識』『主体的に学習に取り組む力』では「できる」が最多となり、良好な評価が得られている。一方、『日常業務における問題提起』『後輩・学生指導』については「どちらともいえない」が最も多く、今後の成長が期待される領域といえる。総じて、昨年度より全体的な能力の評価が高い傾向であった。

### 問3 本学部の教育での学びがどの程度遂行されているか

3項目で「どちらかといえば遂行できる」が最も多く回答され（うち2項目は同数）、2項目は「どちらともいえない」が最も多く、2番目に「どちらかといえば遂行できる」となっており、卒業生が社会人3年目を迎え、臨床現場に慣れ、役割遂行ができるようになりつつある様子がうかがえる。総じて昨年度の評価より高い傾向であった。

### 問4 本学部に期待することについて

本学部に対する期待としては、『教育カリキュラムの充実』『施設(病院)との協力』に「期待する」「どちらかというところ期待する」と回答した割合が高く、基盤となる教育面や実習環境に強い関心が寄せられていた。

一方で、『図書館の充実』『公開講座の充実』『同窓会活動への支援』については「どちらともいえない」が多数を占め、期待の優先度は高くない状況であった。

また、『卒業後の教育支援』『研究機関としての発展』『大学からの情報発信』『地域貢献』については、一定の期待が見られるものの回答が分散していた。

総じて、昨年度同様に本学部卒業生の就職先の管理者は、現場に直結する教育カリキュラムや実習環境の整備を最も重視しており、その他の分野については、施設により関心や期待度に差があることが明らかとなった。

### 問5 松山看護学部看護学科に対するご意見(教育方針や教育内容、人材育成等)、お気づきの点等(自由記述)

卒業生の個人の評価として、意欲的に頑張っている、粘り強く課題解決に取り組んでいるなどの良い評価がある一方、看護師としての資質や問題に取り組む姿勢の弱さなど、課題についても指摘があった。

また、本学に臨むこととして、専門教育に加え、コミュニケーション能力の向上、協調性を身に付け、職員や住民と協働できる人材育成を求める記述、実習において臨床とのギャップがないように実践教育を求める記述がみられた。

# 令和7年度（2025年）人間環境大学卒業生アンケート調査結果

調査期間：令和7年9月4日～9月31日

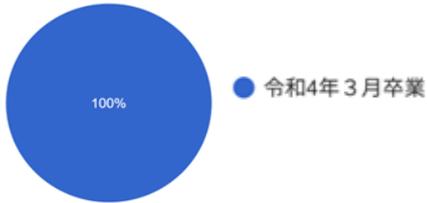
調査対象：2022年度卒業生

回答率：7/48名（14.5%）

調査方法：Google forms

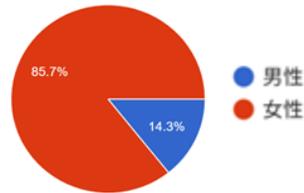
## 問 1-1 卒業年

7件の回答



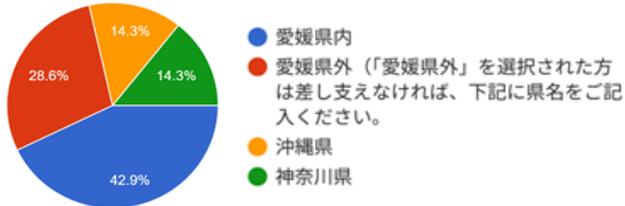
## 1-2 性別

7件の回答



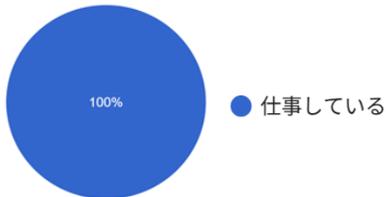
## 1-3 あなたのお住まいについて

7件の回答



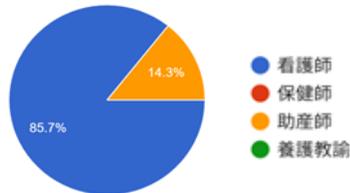
## 問2 現在の就業状況について

7件の回答



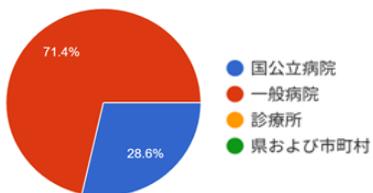
## 問3-1 2で「仕事をしている」と答えた方にお尋ねします。

7件の回答



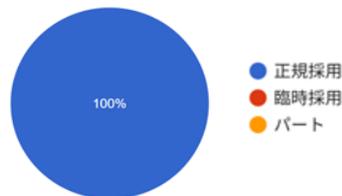
## 3-2 就業している施設について教えてください。

7件の回答



## 3-3 就職形態を教えてください。

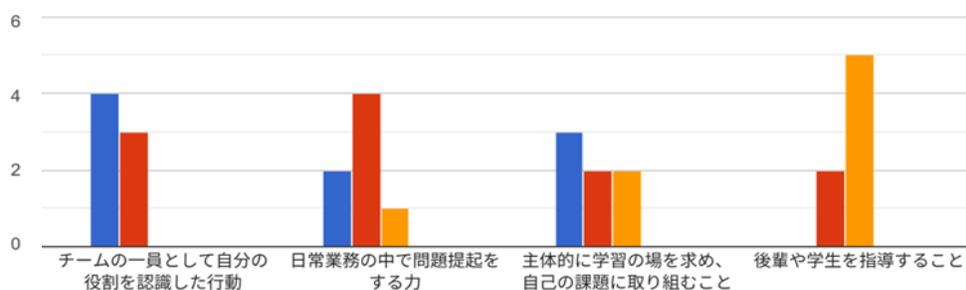
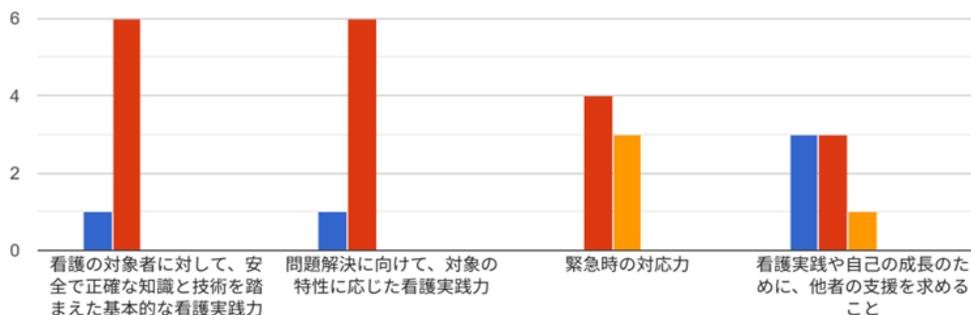
7件の回答



問4 問2で 「2. 仕事をしていない」 と答えた方にお尋ねします。※該当者なし

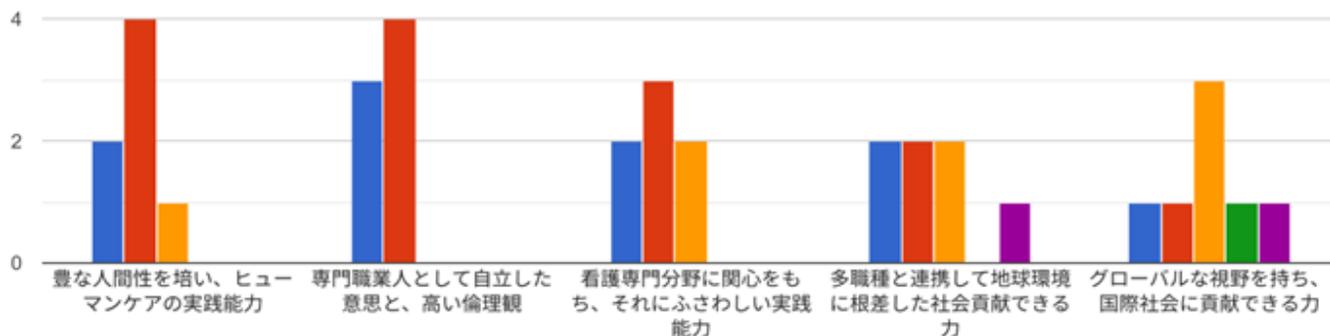
問5 あなたご自身が感じている現在の看護実践力について、あてはまるものにチェックを入れてください

■ できる ■ どちらかというとできる ■ どちらともいえない ■ どちらかというとできない ■ できない



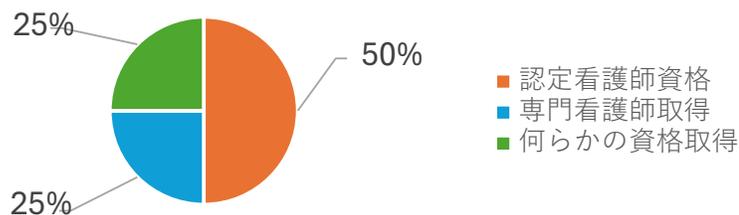
問6 本学部では、卒業時に身につける能力として、下記の5つをディプロマポリシー（学位授与の方針）として提示しています。現在のあなたにとって下記のことが、どの程度役立っているか、あてはまる番号に○をつけてください。

■ 役立っている ■ どちらかというと役立っている ■ どちらともいえない ■ どちらかというと役立っていない ■ 役立っていない

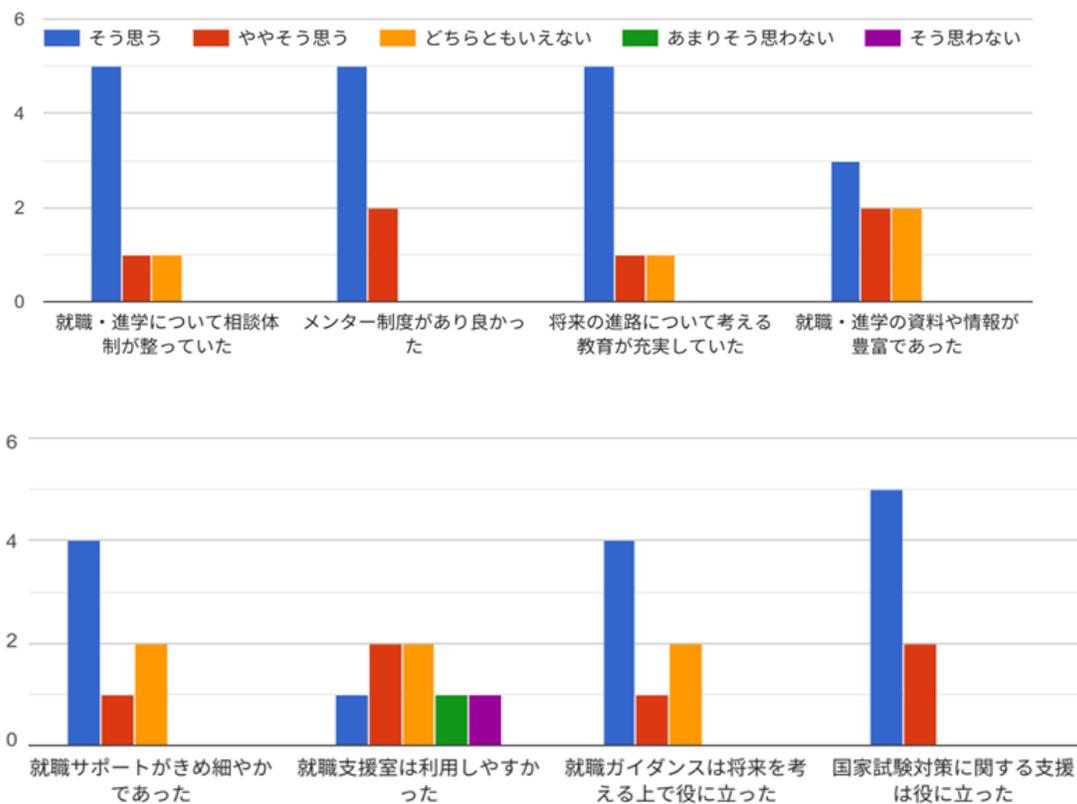


問8 今後のキャリアアップについて、現在、あなたが考えている番号に○をつけてください（複数回答可）

認定看護師資格	2
専門看護師取得	1
何らかの資格取得	1

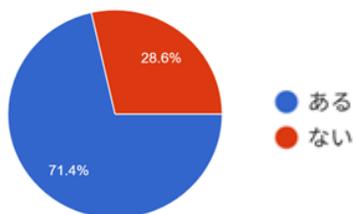


問9 本学部の進路・就職サポートについて、あなたが思う番号に○をつけてください。



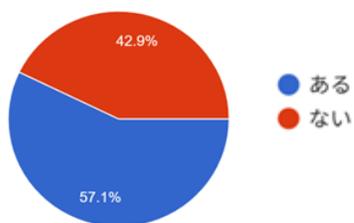
問10-1 卒業後の本学部とのつながりについて、あてはまる番号に○をつけてください。また（ ）にご記入ください。  
 大学卒業後、恩師や同級生との交流はありますか。

7件の回答



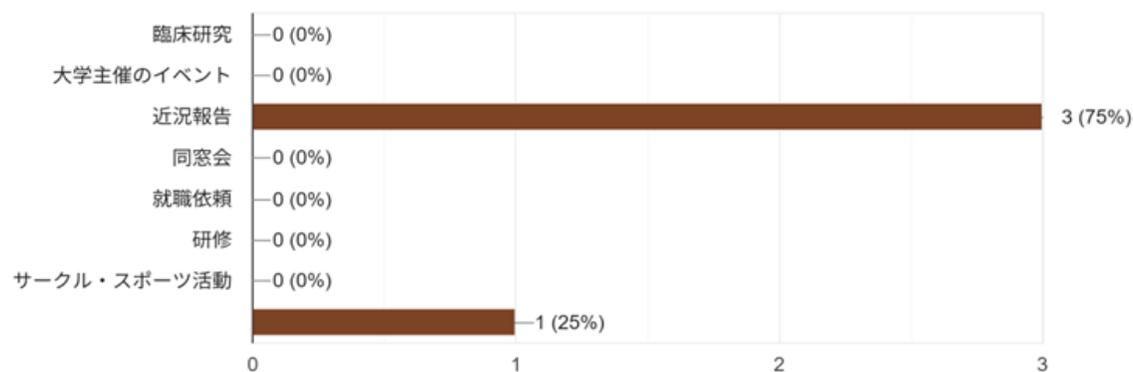
10-2 最近(卒業後)、人間環境大学を訪問したことがありますか。

7件の回答



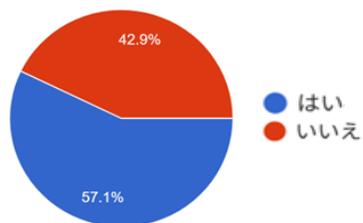
10-3 2で「ある」と答えた方にお尋ねします。訪問のきっかけは何ですか（複数回答可）

4件の回答



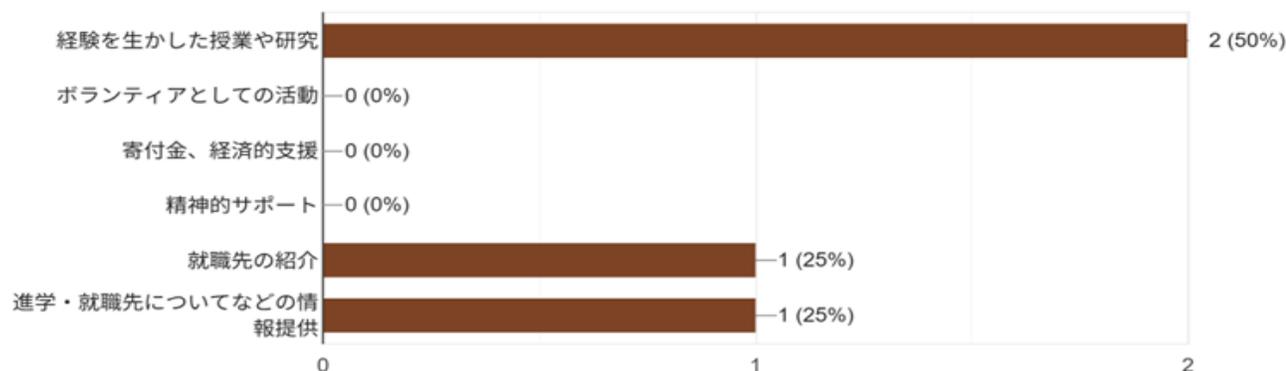
10-4 卒業生として母校をサポートしたいと思いますか。

7件の回答



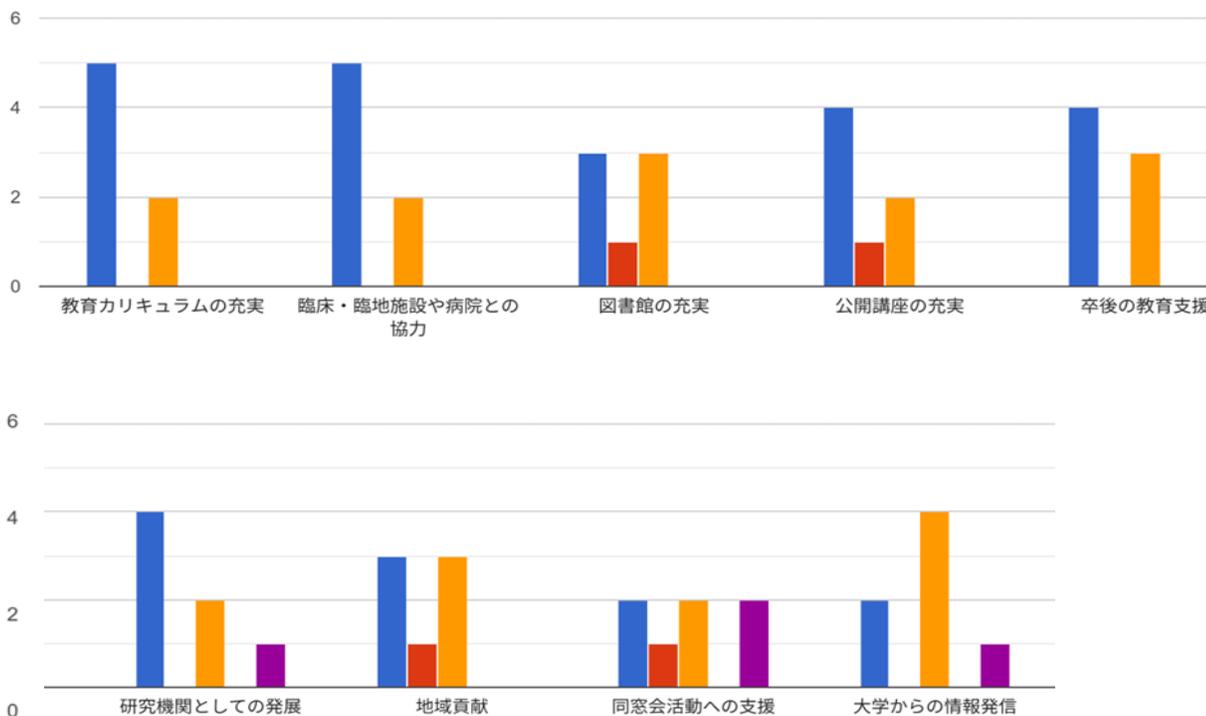
10-5 4で「はい」と答えた方にお尋ねします。どのようなサポートでしょうか(複数回答可)。

4件の回答



問11 本学部に期待することについて、あてはまる番号に○をつけてください。

■ 期待する ■ どちらかという期待する ■ どちらともいえない ■ どちらかという期待しない ■ 期待しない



問12 その他、本学部の教育に期待したいことなどを教えてください。(自由記載)

1件の回答

- ・ もっと臨床で役立つ知識と実践力

## 令和7年度 卒業生アンケート調査結果 総評(令和4年度卒生)

### 【就業状況】

- ・回答者は全員、正規職員として就業しており、居住地は県外が4名と半数以上、愛媛県内が3名であった。
- ・回答者のうち看護師として就業している者が6名、助産師が1名であった。
- ・回答者の就業施設は一般病院が5名、国公立病院が2名であった。

### 【看護実践能力】

- ・『安全で正確な知識と技術をふまえた基本的な看護実践』や、『問題解決に向けて対象の特性に応じた看護実践力』、『チームの一員として自分の役割を認識した行動をとること』については全員が「できる」「どちらかといえばできる」と回答しており、比較的自信をもって実践できている。
- ・『他者の支援を求めること』、『日常生活の中で問題提起する力』についても比較的自信を持っている卒業生が大半であるが、一部どちらともいえないと回答しており、ばらつきがみられる。
- ・『緊急時対応』や『自己課題への取り組み』、『後輩や学生への指導』については「できる」と回答した卒業生はおらず、「どちらかといえばできる」「どちらともいえない」と回答しており、課題であると考えられる。
- ・回答している施設管理者が想定すると卒業生と、卒業生として回答した当事者が必ずしも一致しているわけではないことと、回答率が低いことから単純に比較できないが、すべての項目について管理者の評価と比較し卒業生の方が、自身の状況を肯定的にとらえている傾向にある。

### 【ディプロマポリシー】

- ・『専門職業人としての自立した意思と、高い倫理観』については、全員が「役立っている」「どちらかというと役立っている」と回答している。
- ・『豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力』『看護専門分野に関心を持ち、それにふさわしい実践能力』についても、大半が「役立っている」「どちらかというと役立っている」と回答しているが、一部「どちらともいえない」と回答している。
- ・『多職種と連携して地球環境に根差した社会貢献できる力』についても、半数以上は「役立っている」「どちらかといえば役立っている」と回答しているものの、「どちらともいえない」「役に立っていない」との回答もみられた。
- ・『グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力』については、「どちらともいえない」と回答した卒業生が最も多く、「役立っている」「どちらかといえば役立っている」の合計と、「役立っていない」「どちらかといえば役立っていない」の合計が同数であり、役だったという実感が少ないという結果であった。
- ・ディプロマポリシー各項目についても、管理者からの評価よりも卒業生自身の評価の方が高い傾向にあった。

### 【キャリアアップ】

- ・半数以上の卒業生が、認定看護師、専門看護師、その他の資格取得について考えていると回答した。昨年の回答にあった特定看護師や大学院進学を考えているという回答はみられなかった。

### 【進路・就職支援】

・進路・就職支援のサポートはほとんどの項目が満足度の高い傾向にあったが、就職支援室の利用しやすさについては課題があるという結果であった。

### 【卒後の大学活用、大学とのつながり】

・回答者の 7 割が卒後も恩師や同級生とつながりを持っており、半数以上の学生が近況報告等の為に卒後に本学部を訪問している。また、半数以上の学生が経験を活かした授業や研究、情報提供などで母校をサポートすることにも前向きであった。

### 【本学部に期待すること(自由記述含む)】

- ・すべての項目において「期待する」と回答した卒業生がおり、特に「教育カリキュラムの充実」「臨床・臨地施設や病院との協力」「公開講座の充実」「卒後の教育支援」「研究機関としての発展」については半数以上の卒業生が「期待する」と回答していた。
- ・「同窓会活動」「大学からの情報発信」についての期待は比較的低く、卒業生にとっての優先度は低いと考えられた。
- ・「教育カリキュラムの充実」「臨床・臨地施設や病院との協力」については管理者、卒業生ともに期待度が高く、「図書館の充実」「公開講座の充実」「卒後の教育支援」については卒業生の方が管理者より期待度が高かった。卒業生は、卒後も大学とつながりを持ち、教育支援を受けたり知識・技術向上のために活用したいと考えていることがうかがえた。
- ・自由記述において、もっと臨床で役立つ知識と実践力を期待するとの意見があった。

### 【まとめ】

本調査は回収率が低く、2022 年度卒業生の全体的な傾向を判断することは困難であるが、今回の回答内容からは、本学部の教育体制や就職支援等に対し概ね満足していることがうかがえた。

今後は、ディプロマポリシーにおいては、特に『グローバルな視野や国際社会への貢献力』、『多職種と連携して地球環境に根差した社会貢献できる力』を養うための教育の充実、就職支援においては資料や情報、サポート体制の充実など、特に否定的回答も見られた項目について、より良い体制を構築することが望ましいと考えられる。

卒業生の記述に、もっと臨床で役立つ知識と実践力を、との意見があり、管理者の意見にも臨地実習における実践教育やコミュニケーション能力、主体性、協調性を求める記述がみられていたが、2022 年度の卒業生はコロナ禍での臨地実習であったため特に実践経験が乏しいことも関連していると思われる。今後は、学内での演習では臨床現場を想定したシミュレーション教育や事例検討を充実させ、学生が実践場面を具体的にイメージしながら判断・行動できる力を強化するとともに、臨床で求められる役割や業務の流れ、他者とのコミュニケーションや協働について経験する機会を設け、実習と就職後の実践との連続性を意識した教育が求められる。さらに、臨地実習施設との連携を強化し、教育目標や学生の到達度を共有することで、実習における学びが現場での実践につながるような教育体制を整備することが重要である。

また、卒業後 3 年を経過した卒業生を対象とする本調査は、勤務状況や生活環境の変化により連絡が取りにくく、回収率が低下しやすい傾向がある。本調査の回収率は昨年を下回り、更に回収率が低かったため、今後は、依頼時期や方法の見直し、回答負担の軽減などを検討し、卒業生が協力しやすい調査体制の構築を図る必要がある。